

令和4年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立調布大塚小学校

1 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 観点別達成率（経年比較）

*評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

*目標値に対して △上回っている ≒同程度 ▼下回っている

	第4学年			第5学年			第6学年		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③
令和4年度	△	△	△	△	△	△	△	△	△
令和3年度				△	△	△	△	△	△
令和2年度							△	△	△

(2) カテゴリー別の課題

	中学年	高学年
基礎・活用	どちらも目標値と比べ上回っているが、「活用」と比較すると「基礎」に課題	どちらも目標値と比べ上回っているが、「活用」と比較すると「基礎」に課題
領域	「測定」「図形」に課題	「数と計算」「変化と関係」に課題
解答形式	「選択」「短答」に課題	「選択」「短答」に課題

2 昨年度の授業改善推進プランの検証

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・絵や図に表して、場面を理解したり、演算を決定したりすること ・ペアやグループでの話し合いや発表を取り入れ考えを広げたり、深めたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・量感をつかむこと ・ステップ学習を活用しての確実な定着をはかること

3 観点別授業改善のポイント

低学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・足し算や引き算や九九など、計算の基礎を確かなものにするために、ステップ学習や計算ドリルを活用する。 ・身の回りにあるものの長さ、広さ、かさについて具体的な操作活動を増やすことで、長さや量の感覚を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演算決定の根拠を明確にするために、文章題に沿って図に表す活動を取り入れる。 ・自分の考えを深めたり、教わったことの理解を確実なものにしたりするために、児童同士の話し合い活動や発表の場を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近なものを使って、長さやかさを体感できるような算数的活動を行う。 ・苦手意識をもたないように、学習活動で達成感を得られるように、スモールステップ学習を行う。
中学年		
<ul style="list-style-type: none"> ・計算力を高めるために、反復学習を繰り返し行う。 ・長さ、広さ、かさについて具体的な操作活動を増やすことで、長さや量の感覚を豊かにする。 ・ステップ学習を活用し、児童・教員・保護者が学習状況を把握し、放課後補習教室等、確実に技能が定着するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく演算決定ができるように、問題文の読み方を指導したり、問題文に沿って図に表したりする活動を取り入れる。 ・意見を交流し合うことから自分の考えを深められるように、児童同士の話し合い活動や発表の場を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近なものを教材にし、長さやかさを体感できるような算数的活動を行う。 ・意欲をもって自分の考えを発表できるように、ペア、グループでの活動など、友達と関わりながら学習を進める時間を多く取り入れる。
高学年		
<ul style="list-style-type: none"> ・計算力を高めるために、反復学習を繰り返し行う。 ・敷き詰め活動や用具を使って問題に取り組む時間を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく演算決定し、正確な解答を導くために、問題文に沿って数直線や図に表す活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を生活に生かせるようにするために、身近に感じられる教材を準備する。 ・意欲的に学習に取り組めるよ

<p>し、図形の基礎を養う。 ・ステップ学習を活用し、児童・教員・保護者が学習状況を把握し、放課後補習教室での学習の積み重ね等、確実に技能が定着するようにする。</p>	<p>・自分の考えをペアやグループで互いに説明する活動を増やす。 ・自己の学習理解状況を児童自身が客観的に把握するために、授業の最後に自己評価を書くことを取り入れる。</p>	<p>うに、生活との関連や教科横断的な視点を取り入れ、課題の設定の仕方を工夫する。</p>
--	---	---